



話者の立場に着目した 国会会議録における言語表現の通時的分析

山口昌也(国立国語研究所)

本研究の目的

- ▶ 国会会議録を対象に、経年変化の大きな表現の特徴を分析
- ▶ 経年変化のモデルを作成することが最終的な目標
- ▶ これまでの研究の成果(経年変化の大きな表現の全体的な傾向)
 - ▶ 増加傾向： くだけた表現, 丁寧な表現
「(して)いるんです」「ふうに思い(ます)」「んですけど」
「させていた(だきます)」「ところでご(ざいます)」「思っており(ます)」
 - ▶ 減少傾向： 硬い表現, 演説調の表現
「おきまして」「であります」「ればならぬ」
- ▶ 本発表
 - ▶ 国務大臣と、議員以外の会議参加者(政府委員など)との比較

経年変化の大きな文字列の抽出

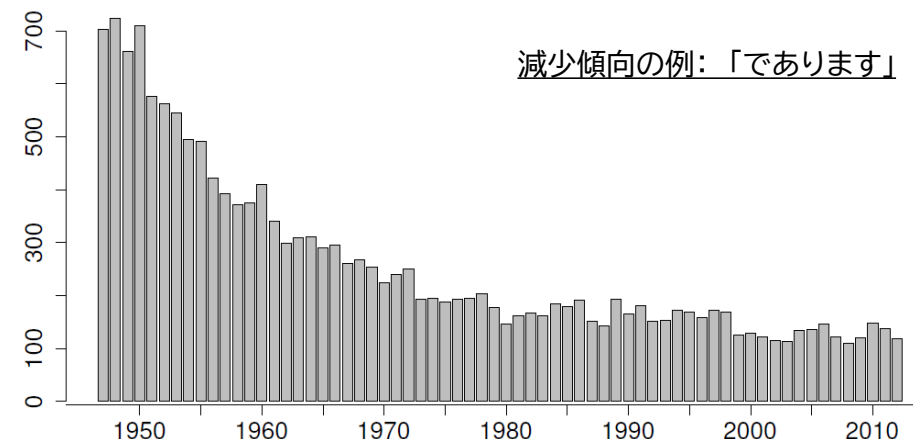
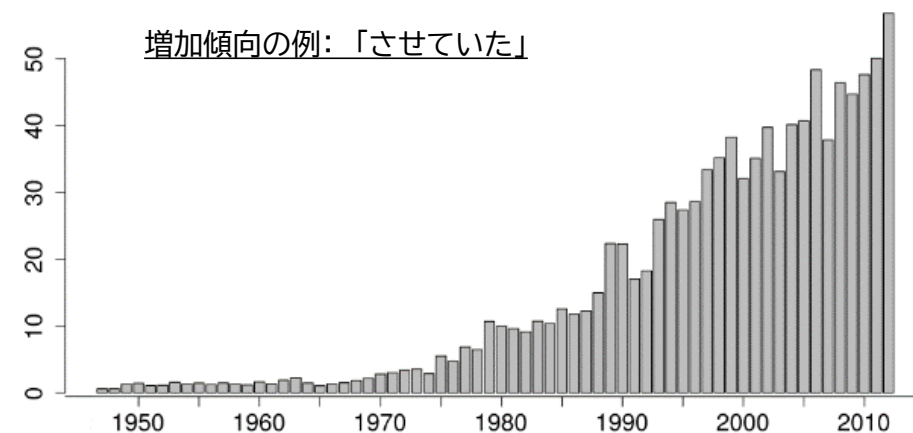
- ▶ 対象とする資料
 - ▶ 衆議院 予算委員会(1947年～2012年)
- ▶ 抽出方法
 - ▶ 収録期間の初期(1947-1965)と後期(1999-2012)で, 文字5-gramを比較し, 調整頻度の変化の大きな文字列を抽出
 - ▶ 抽出された文字列に対して, 全期間での変化を目視で確認し, 議事録作成時の表記規則の変更などに起因する候補を除外
(例:「我々」⇒「われわれ」)

増加傾向:

「(して) いるんです」「ふうに思い(ます)」「んですけど」
「させていた(だきます)」「ところでご(ざいます)」「思っており(ます)」

減少傾向:

硬い表現, 演説調の表現
「おきまして」「であります」「ればならぬ」



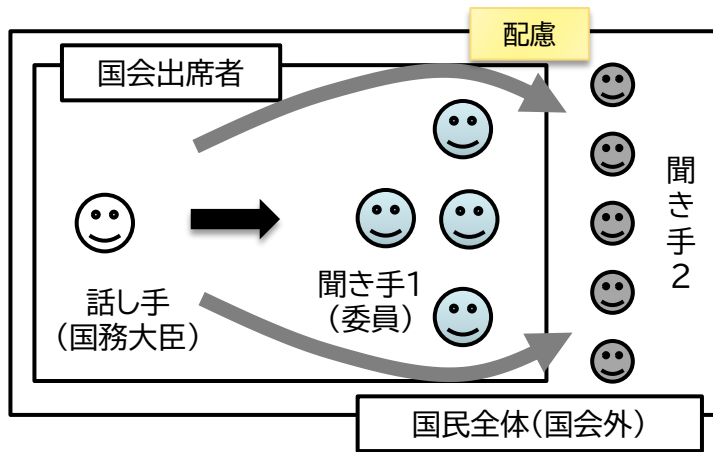
(頻度は10万字あたりの調整頻度)

経年変化のモデル

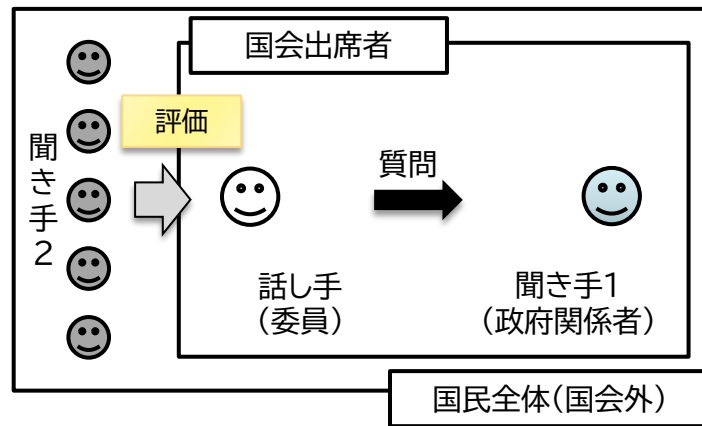
基本的な考え(仮説)

- ▶ テレビなどのメディアの発達により, 聞き手が国会外に拡大
- ▶ 話し手が新たな聞き手を考慮することにより, 言語表現が変化

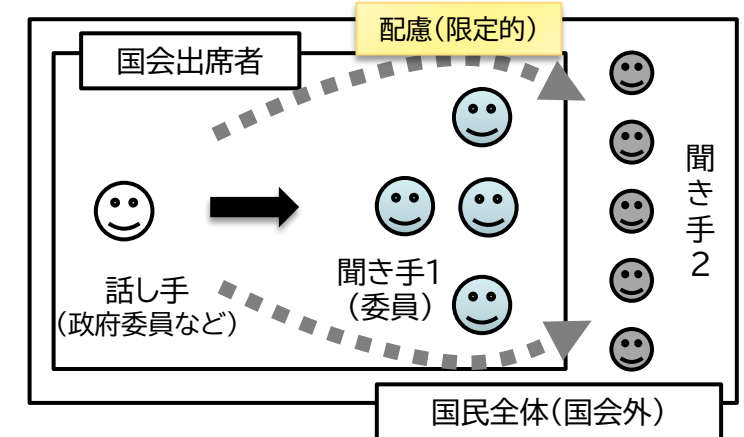
□ 国務大臣



□ 委員



□ 非議員(政府委員など)



立場別にデータを集計

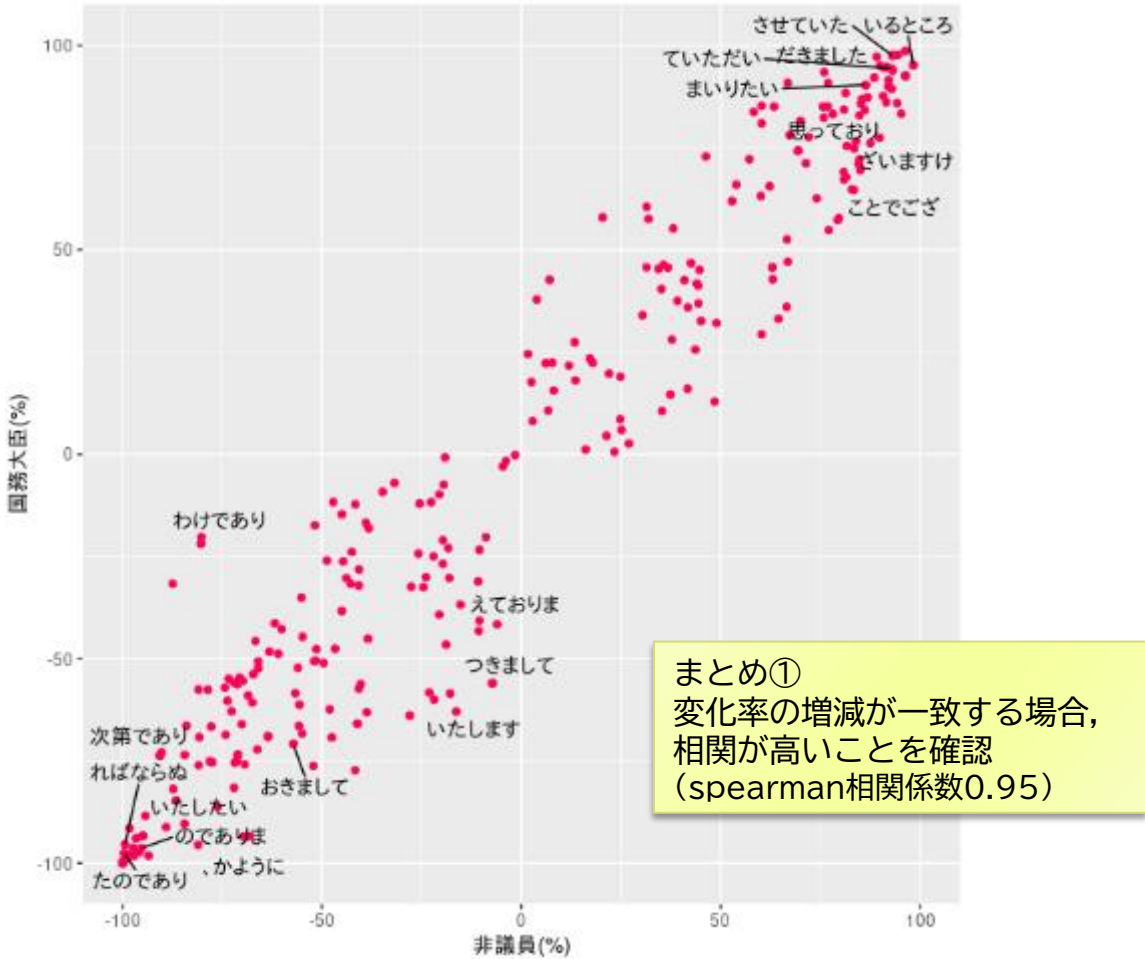
くだけた表現 ⇒ 「委員」で増加
丁寧な表現 ⇒ 「国務大臣」「非議員」で増加
どの立場でも, 硬い表現や演説調の表現は減少

では, 「国務大臣」と「非議員」の違いは?

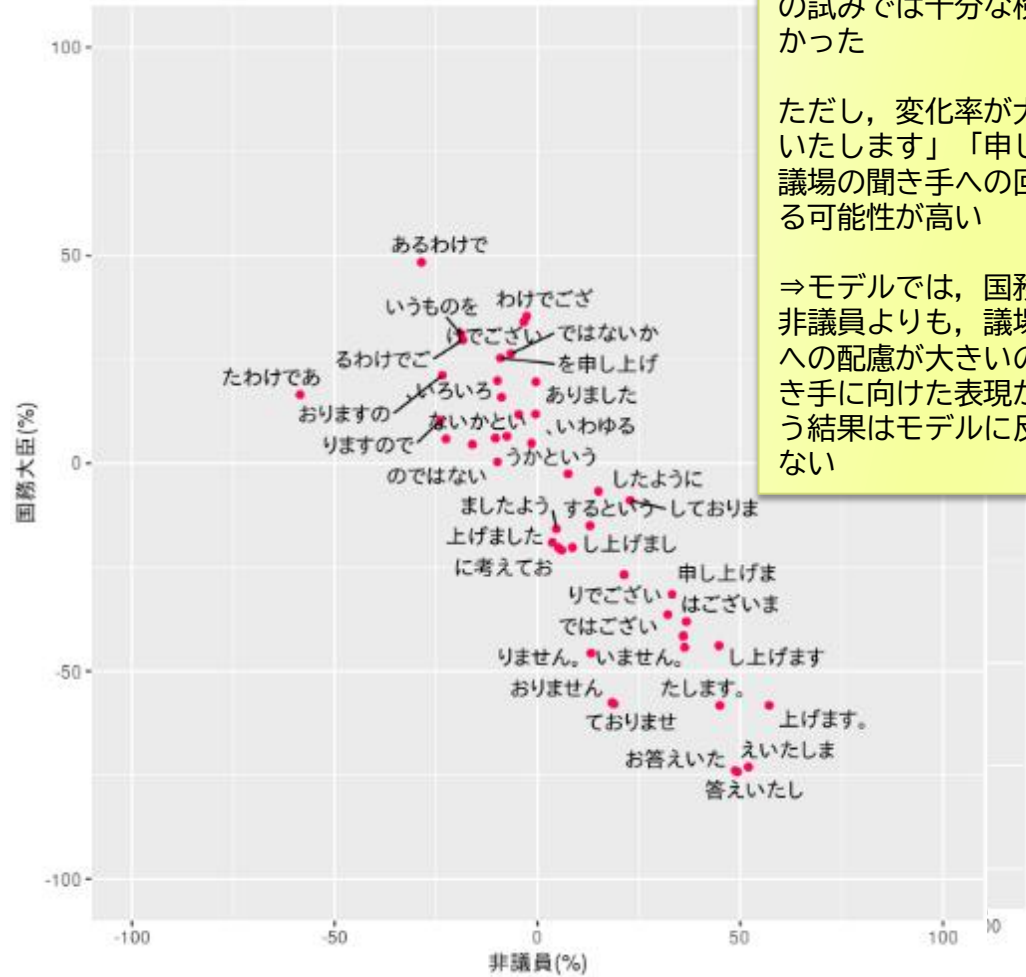
国務大臣と非議員の比較

分析対象期間の初期, もしくは, 後期で
10万字あたりの調整頻度が15以上の文字列

□ 変化率の増減が一致



□ 変化率の増減が逆



まとめ②
変化率が大きい例が少なく、今回の試みでは十分な検証ができなかった

ただし、変化率が大きい「お答えいたします」「申し上げます」は、議場の聞き手への回答の表現である可能性が高い

⇒モデルでは、国務大臣のほうが非議員よりも、議場外への聞き手への配慮が大きいので、議場の聞き手に向けた表現が減少するという結果はモデルに反するものではない

参考資料

macOSの「プレビュー」では、PDF中のハイパーリンクが機能しない場合があるので、ChromeやFirefoxに本ファイルをドロップして閲覧してください。

▶ 既発表

- ▶ 山口昌也（2022）：国会会議録を用いた言語表現の経年変化分析，第16回NINJALフォーラム([ポスター](#))
- ▶ 山口昌也（2019）：国会会議録における言語表現の出現頻度に関する時間的変化モデルの検証，言語資源活用ワークショップ2019予稿集([予稿](#))
- ▶ 山口昌也（2017）：国会会議録における言語表現の時間的変化の予備的分析，言語資源活用ワークショップ2017予稿集([予稿](#))

▶ 資料関連

- ▶ [『国会会議録』パッケージ](#)
- ▶ [全文検索システム『ひまわり』](#)（パッケージを検索するために必要）